



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
 アジア会長主題 「変化をもたらそう」
 東日本区理事主題 「変化を楽しもう！」
 あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
 東京西クラブ会長主題 「変化を恐れず、少しずつ」

2021年3月号
 NO 534

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

これこそ律法と予言者である。

マタイによる福音書7章12節

ピンクシャツデー

神谷幸男

2月24日はYMCAピンクシャツデーでした。皆さんピンクシャツデーの行事に参加しましたか？ 私は参加しませんでした。「いじめ」について改めて考えてみました。(ピンクシャツデーにつきましては皆さまご存知のことですのでここでは説明を省略します)

ある中学生がクラスの生徒たちのいじめに遭い自死してしまった記事が新聞に掲載されたことがありました。この事件について学校側、教育委員会は調査の結果、「いじめ」はなかったと結論し、学校側には責任がないということになりました。なんか変だなとは思いました。

私の小学生のころから最近までの間に、人を「いじめ」たことがあったか、また「いじめ」られたことがあったかを思い返してみました。確かに、「あいつ」を貶めてやろうと思って「いじめ」

の言動に及んだこともありましたが、それ以外のこのような例は殆ど記憶にありません。しかし後から考えてみるとこれも「いじめ」の言動であった思い当たる言動は度々あったかと思えます。これは会社に入ってからのことですが、ある女子社員のスタイルをスケッチして見せたところ、その時は苦笑いしていただけでしたが、数日後にその女子社員から「いじめられた」と言われて愕然とした経験があります。一方、「いじめ」られた記憶に関しては、鈍感なせいかな感受性に乏しいのか「いじめ」られた記憶がないのです。今考えてみますと、あの事態は「いじめ」られていたんだなど考えられるふしもないことありませんが、殆ど忘却していて、いずれにしても「おめでたい」人間であると思わざるを得ません。

このように、「いじめ」はいじめ側の言動の内容にのみ在る

のではなく、なにか言われたことにあるいはある行為を受けたその人が心身に苦痛を覚えればこれが「いじめ」になることであると思います。ですから一律に「このような行為がいじめである」などと言った基準が作れるものではないことは明白です。物事の善悪、白黒を判断する「基準」がなければ判断できないことに慣れ親しんできた役所のお偉いさん方々はもとより、われわれにあって「いじめ」とはどう言うことなのかについて十分に意識に留める必要があるでしょう。

YMCAのピンクシャツデーの一連の行事、例えば1月30日に開催された東京YMCAの講演会「大人も学ぼう！ いじめの構造と解決策」は、「いじめ」に関する人々の意識の再構築を推し進める素晴らしい行事であると思います。

クラブ役員

会長 篠原 文恵
 副会長 大野 貞次
 書記 本川 悦子
 会計 石井 元子
 担当主事 横山 弥利

2月の記録		ニコニコ		－円	
在籍者数	12人	メネット	－人	クラブファンド(当月)	－円
(内功労会員)	1人	コメント	－人	クラブファンド(残高)	－円
出席者数	－人	ビジター	－人	ホテ校ファンド(当月)	－円
メーキャップ	－人	ゲスト	－人	ホテ校ファンド(残高)	－円
出席率	－%	出席者合計	－人	WHO参加者	－人
前月修正	－				

2月の東京西クラブ

2月の例会と事務会はコロナの緊急事態宣言が解除されないため、中止になりました。コロナの感染者数は減ってきたとはいえ、昨年の同時期に比べ、その数はけた違いに増えています。少なくなると喜ぶのにはまだ早く、油断はできません。以前のようにおいしいお弁当、村野さんの手作りお菓子を食べながら歓談できることを心待ちにしています。書記の仕事を失ったクラブ書記のつぶやきです。

私事ですが、管楽合唱団に所属してまして、演奏会は昨年は中止になったのですが、2月21日に小規模ですが、演奏を行いました。

出来具合はともかく、久しぶりの緊張感は、認知症の予防になると思いました。(本川悦子)

ワイズあれこれ

★アジア地域で YMCA とワイズの「橋渡し」の「リエゾン」を担当されている山田公平さん(宇都宮クラブ)からの報告。(中略)ワイズのないアジア地域の YMCA に呼び掛けたが、ミャンマーの反応が良く、4か所の YMCA が関心を示し、それぞれがメンバーを12~18人集め、設立への動きが出てきました。当初はスポンサークラブは東南アジア地区からと考えており、香港やシンガポール、タイなどから募る予定でした。多分東南アジア地区からもスポンサークラブが出るでしょうが、これからチャーターまでの1か月か2か月の間に日本から関心のあるワイズがありましたらお問い合わせください。(東日本区会員増強事業主任・伊藤幾夫さん【東京多摩のみ】)

★次期国際会長、次期アジア会長の選挙がオンラインで行われ、国際会長にはサミュエル・チャッコ氏(インド)、アジア会長にはシェン・チミン氏(台湾)が選出されました。

あずさ部Zoom評議会

2月13日(土)18:30から第2回あずさ部評議会が Zoom 形式で開かれました。

板村哲也区理事、大久保知宏次期理事の挨拶の後、次々期あずさ部長に(富士五湖)の後藤明久さんを推薦、部則修正などの提案があり、20日までに書面で承認を送付することに決まりました。

事前に配信されたプログラムに、各クラブ・事業主査の活動報告は説明されていたので、東日本区法人化についての説明に時間を割き、委員会メンバーから丁寧な説明がありました。長所、短所の説明も資料に示されているので、理解が深まったと思います。

閉会点鐘のあと、Zoom の効果的な使い方などを IT に強い若手メンバーから教えられ、画面に映りこむ室内背景のバーチャル画像の取り込み方法を皆で学習しました。これは Zoom 会議ならではの利点なので、今後も機会を利用して新しい情報を得ていきたいと思えます。

当日の参加は約42人、当クラブからは大野、神谷、本川、吉田、篠原の5人でした。(篠原文恵)

第1回にし連合オンライン飲み会

熊本にしクラブの岩本悟さんの発案で初めてオンラインを用い非公式ながら「飲み会」が3月20日に開催されました。はじめはどんな会になるのか、不安はありましたが、蓋を開けてみたら全5クラブの顔が揃いました。人数は14人から活発なおしゃべりが飛び交い、予定の時間を40分もオーバーする盛況でした。歓談は、皆さんの近況報告のほか、京都ウエストクラブの40周年祝会が開かれず、皆と顔を会わすことが出来なくて残念だったとか、東日本区では法人化を進めているとか、東日本大震災10年記念礼拝に参加したとかが話題になりました。

(4頁につづく)

■新2年生の就職戦線スタート! 本格的な就職活動対策セミナーと学内企業説明会が始まりました。自己PRや志望動機など自己分析の相談が急増中です。コロナウイルスの影響で採用を見送る企業が一部出るなど、昨年から買手市場に様変わりした就職戦線にどう立ち向かうのか、大変な状況下ではありますが、それぞれに合った就職先にたどり着けるよう、また、社会人としていい形でスタートが切れるようにスタッフ一同しっかりサポートしていきます。

■全国YMCAで取り組んでいる、いじめ反対キャンペーン「ピンクシャツデー」が今年2月24日であることを受けて、東京YMCAでは1月30日に講演会「大人も学ぼう! いじめの構造と解決策」をオンラインで開催し、金子春菜弁護士と足立悠弁護士にお話を伺いました。会員、子育て中の保護者、学校関係者、全国YMCA関係者他、約100人が参加し好評でした。(機関紙「東京YMCA」2月号に概要を掲載。)

■2月23日「第21回日本YMCA大会」がオンラインで開催され、全国YMCAから会員、職員、ボランティアリーダー、学YMCAメンバーなど、約250人が参加、東京YMCAからも35人が出席しました。第一部では関田寛雄氏(日本基督教団神奈川教区巡回牧師)による基調講演の他、注目されるいくつかのYMCAの活動事例やユースの声を紹介されました。また、東日本大震災10周年を覚え、支援活動に携わったボランティアやスタッフから話を聞きました。続く第二部ではグループに分かれて対話の時を持ちました。東京YMCAでは障がいのある子どもたちや経済的支援の必要な子どもたちのため1980年から毎年4月にチャリティーゴルフ大会を開催しています。

(担当主事 横山弥利)

私の大切な人

村野絢子

無二会（元永福小学校の父母の集まり）

名付け親は、亡き宮崎新（宮崎駿の兄）。40年続いた自称「不良中年の会」である。始めの頃は毎週土曜午後6時過ぎに10組の夫婦が、順番に各家庭を開放して、料理一品持ち寄り・飲み物持参で集まった。和光大学教授・銀行・広告会社・横浜ゴム・農林省・IBM・道路公団・東芝と全員サラリーマンと主婦であった。仕事は異なるが、ほぼ職場と家庭の生活が一気に広がり、真夜中を過ぎることしばしばで、子どもの話はめったに出ない。暫らくして月1となった。食事とアルコールの後はカラオケ・麻雀・おしゃべりが続いた。ホームパーティー料理集もまとめた。1991年から、年に1回の積み立て旅行を始めた。毎月1人5千円（年6万円）で、普通行かない場所に1泊旅行をする。

2組が順にお当番として、企画からすべて担当す

ることになった。第1回目は湯河原。箱根、京都、伊豆長岡と殿様旅行が続いたが、1995年大島でトビウオの夜釣り、2004年（2年分貯めて）客船飛鳥で神津島クルーズ、2006年大学で農学部の学生がお世話になった農家を訪ね、山形南陽市でサクランボ採り、2007年京都丹波でザイラーピアノデュオ茅葺コンサート、2011年8月、東日本大震災後修復中の宿に泊まり、仙台、石巻を回った。今は、男性4人女性9人に減ってしまった。コロナの昨今、会うことも出来ない。懐かしい時を反芻している。



客船 飛鳥号

山田利三郎、紀子ご夫妻近況



ケアマンションの広告写真のモデルとなったリハビリ中の山田利三郎さんと、下左の紀子さん

東京西クラブブリテン 2020年10月号に山田紀子さんが「老人ホームに入居して」と題してお2人の楽しく毎日を過ごされていることが紹介されました。

また、吉田明弘さんからのメール「利三郎さんから電話がありました。彼のケアマンションの宣伝チラシのモデルに起用され、昨日の読売、日経朝刊に折り込まれた

そうです。（中略）『莫大なモデル料が入ったでしょう』と言ったら『逆だよ』とのことでした。（以下省略）

モデルになるのもいろいろ大変だったそうですが、晴れやかな山田さんの写真ですので掲載させていただきました。写真はチラシの主要な一部分です。

ご両人がお元気に過ごしておられることを拝見して、とっても嬉しい気持ちになりました。

（神谷幸男）

(2頁からつづく)

参加者は、市橋さん、森田さん夫妻、牧野さん（京都ウエスト）、柿島さん、谷さん、湯浅さん（大阪西）、大田さん、加茂さん（神戸西）、岩本さん、木本さん、中西さん（熊本にし）、吉田さん、神谷（東京西）でした。

柿島さんは所用のため中座され、加茂さん、木本さんは偶々ビデオミュートされていたためか写真に載っていません。

（神谷幸男）



第1回にし連合オンライン飲み会参加者

編集後記

今年は桜の満開が早く訪れました。コロナの蔓延が緊急事態の解除とうらはらに益々勢いづいていますが皆さま、晴れ晴れとした毎日をお過ごしのことと思います。

毎度のこととは言え原稿をお寄せ下さいましたこと、まことに有難うございました。

今月号の発行が遅くなりましたことをお詫びします。（S.K）